

2.5 大久保山の山抜け（位置 No.⑦）	
発生年月日	文化六年一月二十四日（1809.3.9） 文化十五年三月十一日（1818.4.16）
発生地点	長野県小谷村大字中小谷大久保
緯度・経度	36.7831, 137.9206
発生誘因	不明
天然ダムの形成	有 ・ 無
被害状況	人的被害：不明、家屋被害：27戸
災害概要	<p>文化六年一月二十一日（1809.3.6）に大久保沢原（佐原）の家より上が抜けました。そこで、人馬や家財等を近辺の村々へ移動させたところ、二十四日夕方頃に大久保で山が抜け崩れ、土砂が押し出し、家や田畑に甚大な被害が発生しました。また、横根沢を閉塞し天然ダムが形成されました。この天然ダムが決壊した場合には、川下の村々（宮本、下里瀬）に被害が発生してしまうため、人馬や家財等を近辺の村々へ移動させました。</p> <p>その後、文化十五年三月十一日（1818.4.16）の日の出頃、再び大久保上の山の北方が抜け、天然ダムが形成されました。これにより、上流で増水して、川下の村々が危機に瀕したため、小谷村々の人足が300人ほどで掘割を造り、水を減水させています（小谷村誌編纂委員会，1993a）。</p>



位置図

国土地理院「標準地図」に加筆

◎ 大久保の山抜け

文化六年（1809）に大久保で起った抜けは、人家ばかりか田畑への被災も大きく、年貢を納められる状況ではなくなるほどの大災害でした。

文化六年一月二十一日（1809.3.6）、大久保沢原（佐原）の家より上が抜け、人馬・家財を近くの村々へ避難させたところ、二十四日夕方頃、山が抜け崩れ、土砂が押し出し家や田畑に大きな被害が発生しました。

そして、この土砂は横根沢を閉塞し、天然ダムを形成したため、今度は川下の村々（宮本、下里瀬）が、人馬や家財を近くの村々へ避難させるこ

とになりました。その後、文化十五年三月十一日（1818.4.16）の日の出頃、再び大久保上の山北方が抜け、天然ダムが形成されました。上流の湛水と決壊による被害を防ぐために、村々の人足が300人ほど集まり、掘割工事をしたといひます。

◎ 近年の活動状況

古くから活動を続けてきた大久保の山抜けですが、近年も昭和60年3月に大規模な活動があり、同年より、調査、施工が行われました。

◎ 古記録に見る被害状況

中谷村・石坂村・土谷村・来馬村庄屋の記録

- 一 家数八軒 中谷村枝郷 大久保
- 一 同 三軒 土谷村枝郷 吉尾
- 一 同 一軒 土谷村枝郷 宮本
- 一 同 二軒 石坂村枝郷 堀池・下沢原
- 一 同 九軒 来馬村枝郷 沢原

右（上）は当月二十一日（3月6日）大久保 沢原（佐原）の家より上ぬけ付け心もとなく人馬家財等近辺村々へ退き申候ところ

二十四日（3月9日）暮あい時 大久保山ぬけ崩れ押出し

家居共に残らず押出し田畑残らず

且つ横根沢押掛り大そうなる池でき 右池押払い候節は川下村々宮本 下り瀬心もとなく存じ奉候につき人馬家財等まで近辺村々へ持送り申し候（後略）

大久保の幸右衛門宅の被災状況

持高 二石八斗二升五合 幸右衛門

残らず押出しもみいたみ申候

内 一斗一升九合 当流

一 家内五人 けが御座無く候

残テ 二石七斗六合荒地成る

牛馬御座無く候

一 石臼 一ツ

一 茅家軒間七間半 同 人

一 木臼 一ツ

梁間四間五尺 一 木挽臼 一ツ

雪隠一ヶ所

（小谷村誌編纂委員会，1993a）

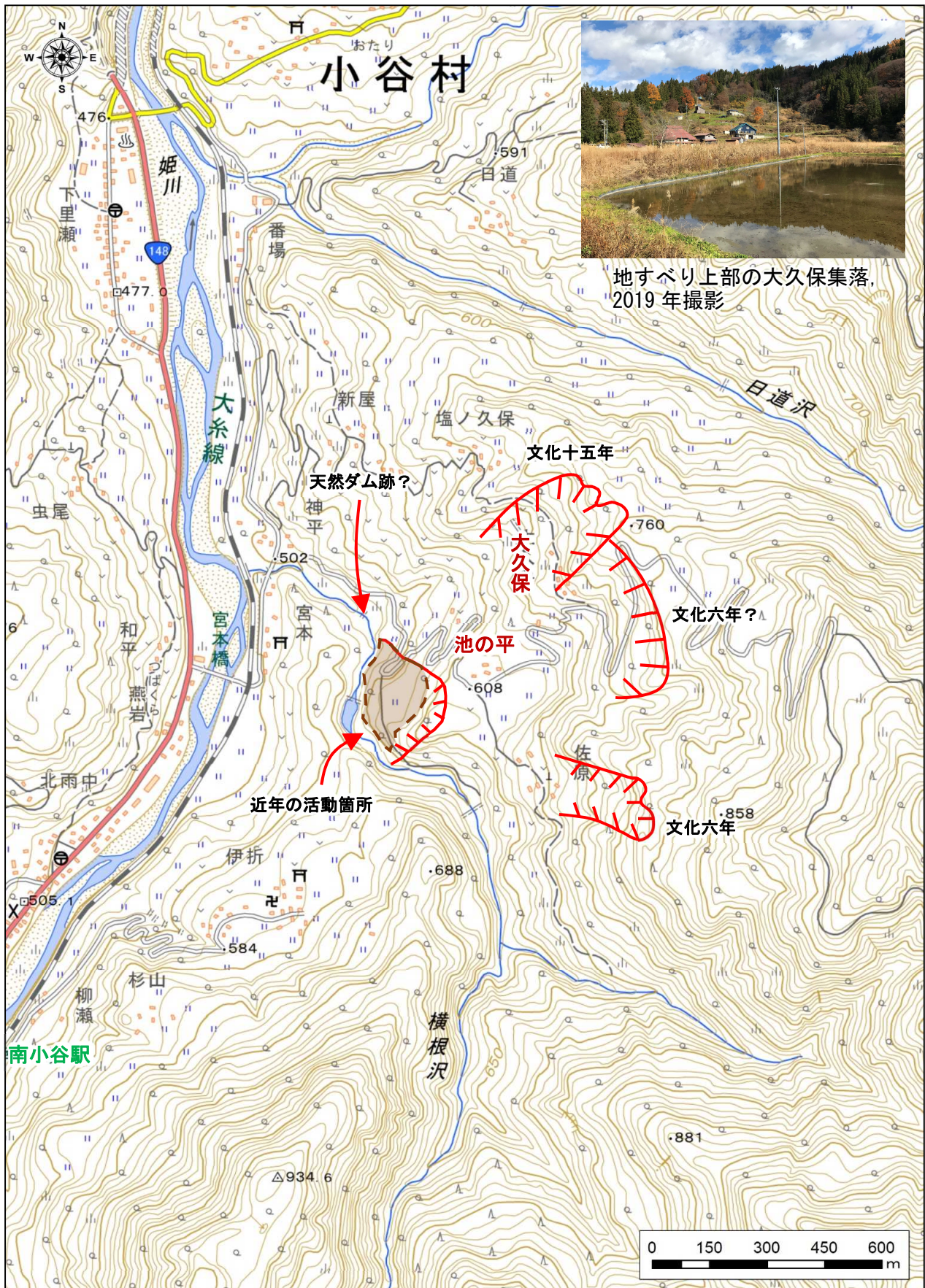


図 2.13 姫川右岸大久保地すべり周辺地形図 (地理院地図に加筆)

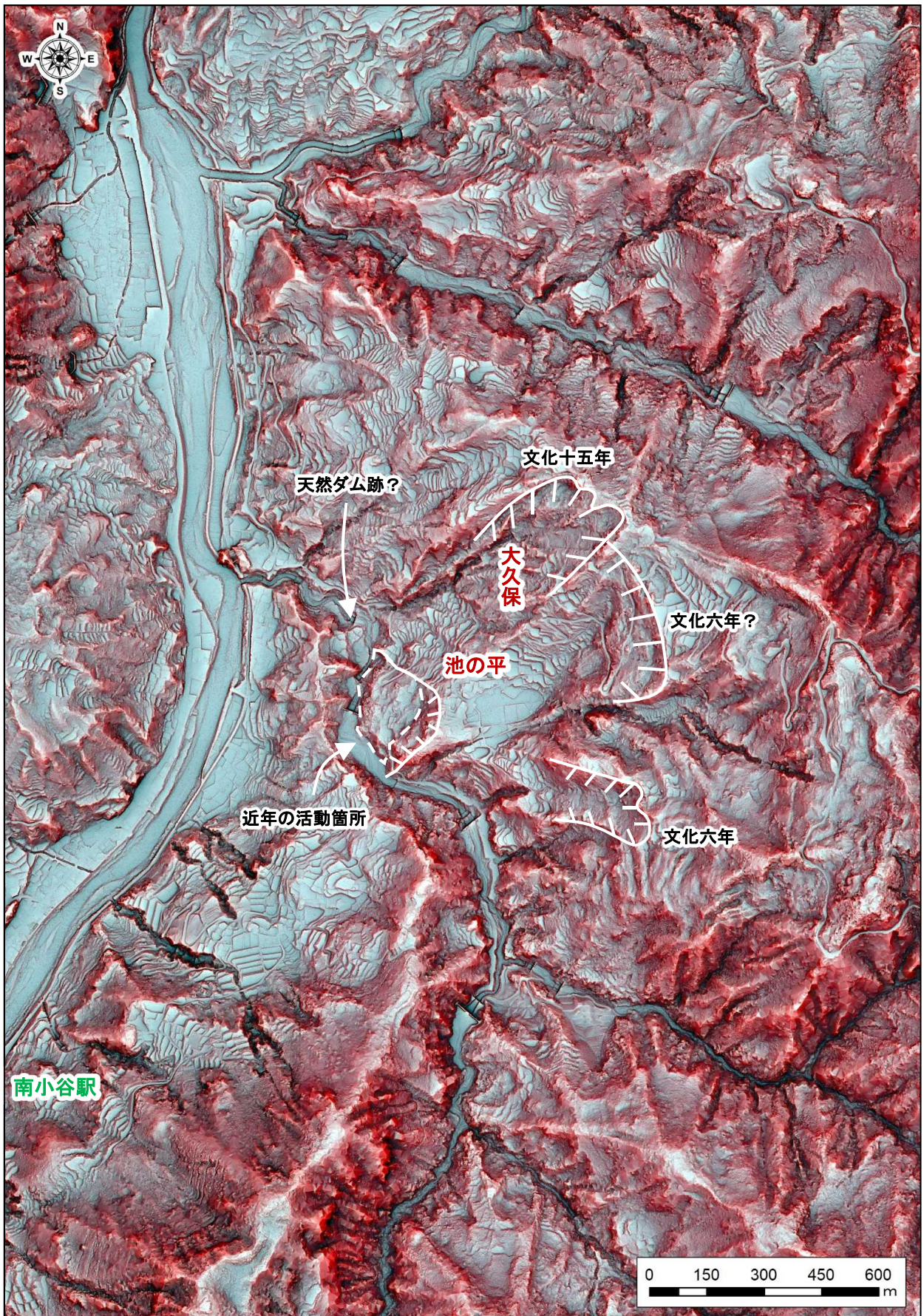


図 2.14 姫川右岸大久保地すべり周辺の赤色立体地図